蘇州だより

蘇州日本人学校
教諭　櫻井　紀邦
令和４年３月１６日
No.10

蘇州は、３月中旬になって最高気温が３０度に迫る日が続いています。木蓮が咲いたと思ったら一気に散り、桜がいきなり満開になりました。

コロナの影響を受けた年度末

蘇州でコロナ感染者が出た影響で、蘇州日本人学校は２月中旬から突然オンライン授業となりました。学校を閉じるのも、再開するのも交渉の余地はなく、蘇州市の教育局からの通達によって決まります。今回の決定も突然で、ある程度準備はしていたものの、様々な臨機応変の対応が必要となりました。結局、修了式まで登校許可の通達はなく、オンラインの修了式で今年度が終わりました。

３月５日の卒業式は、中学生のみ行いました。行ったといっても、卒業生と保護者に時間をずらして来ていただき、校長室で個別に卒業証書を渡す形をとりました。中学生は、卒業後に帰国するご家庭が多いので、５日に証書を渡す必要がありました。

一方、小学生は少し事情が異なります。今年度はほぼ全員がそのまま中学部に進学することもあり、卒業式を３月３１日に延期することとしています。一時は蘇州の感染状況がよくなったのですが、３月中旬に再び蘇州市内で感染者が出た関係で、厳しい規制がかかっており、雲行きが怪しくなってきています。

私の学級も２月中旬からオンライン授業となり、そのまま最後まで子どもたちと直接会うこともなく、オンライン修了式でおしまいとなりました。日本人学校では、年度末で日本に帰国するご家庭が多いので、年度末はお別れ会シーズンでもあります。結局、オンラインでお別れ会をしました…。しりとりやクイズなどで楽しんで、後はオンライン上でお別れの挨拶をすることぐらいしかできませんが、それでも子どもたちは楽しんでいました。３月９日の修了式では、画面越しに子ども達に最後の話をしました。

ゼロコロナ政策を実施している中国ですから、感染者が出た時の対応はかなり厳しいものがあります。私も蘇州市から出られない状況が続いています。ここに来てお隣の大都会、上海の感染者が増えています。今年度の教員の帰国では、蘇州出発日の２日前に突然出発日を１日早めることになり、大慌てでの出発・見送りとなりました。１日遅れたら、上海に入れなくなり、上海発の飛行機に乗れなくなる恐れが出てきたためです。（無事帰国したとの連絡がありました。）

オンライン修了式の一コマ

来年度に向けて

難しいのが年度初めの対応です。まずは、来年度派遣の先生方がいつ蘇州に来られるか分かりません。それまで、担任の先生がいなかったり、中学部ではその教科の先生がいなかったりする中で、教育活動を始めなければいけません。４月から蘇州に来る予定の子供たちもいつ学校に来れるかもわかりません。それから、児童・生徒が登校できるのかという問題も重要です。予定通りの期日に始業式を行い、オンライン授業をしていくのか。それとも、始業式を遅らせるのか。どのようにするにせよ、課題は山積みです。

いずれにしろ、一番困るのは見通しがつかないことです。その時の感染状況によって変わってくるので、いろいろな場合を想定して備えなくてはいけません…。

蘇州だより

蘇州日本人学校
教諭　櫻井　紀邦
令和４年４月１６日
No.１１

蘇州日本人学校での３年目の仕事が始まりました。しかし…。

ゼロコロナ政策下での新年度開始

上海でのロックダウンのニュースが日本でも報道されています。確かに、上海日本人学校の方々から漏れ聞こえてくる現状はなかなかのものです。

上海から新幹線で西に３０分ほどの距離にある蘇州も、３月下旬から徐々に規制が厳しくなってきました。４月になり、教職員が全員出勤することに制限がかかり、出勤の時間帯をずらして分散出勤の形をとって新年度に向けての会議や準備をしてきましたが、結局状況は好転せず、１週間始業式を延期していました。

空っぽのスーパーの棚

しかし、蘇州でも状況は悪化する一方で、４月１４日には教員の出勤さえ禁止となってしまいました。学校や会社、お店などは閉鎖です。ただ、今のところ、蘇州では食料品を扱うスーパーのみ品数が少ないものの開いていますし、食べ物の宅配も動いています。お米と水は家に備蓄がありますので、本格的なロックダウンに入っても生きながらえることはできそうです。中国では、水道水が飲めないので、飲料水の確保が大切です。

PCR 検査のスナップ

マンションの出入りには、スマホで「健康コード」を示すことに加えて、「許可証」の提示も必要となりました。その「許可証」が必要となるとの通知が来たのも突然でした。「許可証」の発行にはパスポートと賃貸契約書をもって、何時にここに来なさいと突如連絡がありました。私はその時出勤していたので、パスポートも賃貸契約書も持っていません。マンションに入れなくなる！とピンチでしたが、賃貸契約書の画像を不動産屋さんにスマホに送ってもらい、パスポートはスマホに保存しておいた画像を示して何とか許可証をゲットし、マンションに帰ることができました。PCR 検査の日時の連絡も突然来ます。前日又は当日に連絡が来て、昼夜問わず例えば 8:15～8:30 の間に来なさいというように、15 分間限定で指定されます。

学校は、18 日にオンラインで開校します。すべて、教員の自宅からのオンライン授業です。私は、今年度１年生を担任していますが、１年生は他の学年とは別の動きをしていきます。１年生のオンライン授業の開始は、１週間遅れで設定しました。最初の１週間でまずはオンラインでの接続やアプリの使い方の確認、担任と子ども達との個別の顔合わせなどを済ませ、来週からオンライン授業を開始する予定です。

問題もあります。アプリです。中国あるあるなのですが、昨年度使っていたアプリに突然機能制限がかかり、双方向のやりとりができず一方的な動画配信しかできない可能性が出てきました。そこで、１年生は発達段階を考え、双方向のやり取りが可能な別アプリの利用を検討しました。実験を繰り返し、何とか使えそうな目途が立ったところです。とはいえ、１年生でいきなりオンライン授業？何をどのようにしたらいいのかな？と手探りではありますが、できるだけのことをしていきたいと思っています。

現時点では、学校が再開できる見通しは全く立っていません。何か月もオンライン授業が続くことも覚悟しつつ、自分の心身の健康にも気を付けてがんばります。

蘇州だより

蘇州日本人学校
教諭　櫻井　紀邦
令和４年５月３０日
No.12

閉まるのも突然、開くのも突然

学校再開の見通しがつかない中、このままずっとオンライン授業が続くことを想定し、学習指導計画の見直しや評価のあり方や方法などについて本格的に検討を始めていた５月中旬…。前触れもなく、突然開校となりました。

前年度の２月から子どもたちは登校できず、学校に足を踏み入れることができなかったので、前年度の子どもたちの荷物や学用品等もすべて学校に残っている状態でした。分散出勤が可能であった時期にある程度の新年度の準備はしていたとはいえ、数日後に開学となるとしなくてはならないことが山積みでした。教職員は連日夜遅くまで残り、休日返上で何とか登校初日を迎えたような状況でした。

登校初日を迎えるまで大変だったのは、刻々と変化する通達への対応です。児童登校時点からさかのぼって 48 時間以内の PCR 検査の陰性証明が必要になりました。それも、児童本人だけではなく、同居家族全員分です。ここで詳述はしませんが、陰性証明の提出方法やアプリの設定、その他様々なところで数々の問題点があり、対応に追われました。初日、とにもかくにも児童・生徒全員が登校できて、本当にほっとしました。

登校できても、PCR 検査を全児童・生徒・教職員対象に毎日校内で行わなくてはいけません。開学以来、毎日校内で 300 人以上の PCR 検査を行っています。検査をする人員の加配などあるはずもなく、PCR 検査の研修を養護教諭・事務職員・管理職が急遽受け、何とか校内で回しています。助かるのは、検査を嫌がる子が一人もいないことです。子どもたちも検査慣れしています。PCR 検査は完全に日常の一部です。校内の検査の他に、３日に１回、社区（地区）で検査を受けています。私が PCR 検査を受けた回数は、通算３桁は間違いないのではないかと思います。何の自慢にもなりませんが。

さて、私が担任している１年生。初日は保護者入校なしの入学式を行い、翌日から何といきなり６時間授業！例年でしたら入学式より１０日間程度は昼前に下校するのですが、急遽の開学でスクールバスの契約変更ができず、下校のスクールバスが出る１６時まで帰れません。どうなることかと思いましたが、いろいろ工夫し、何とか１６時まで１年生は楽しく元気に過ごしています。ただ、上海のロックダウンの影響もあり、まだ着任できていない教員も多く、専科の授業が組めていない関係で、担任は１日中１年生に付きっきりです。子どもたちが落ち着いて学校生活を送れるようにはなったので、何とかトイレには行けますが、やはり目は離せないので、なかなかハードな毎日です。今年度入学の１年生は、コロナ禍に幼児期が当たっており、また隔離や一時帰国等の駐在員特有の事情もあり、日本語環境での集団生活をほぼ経験できていない児童も少なくありません。そうした事情を踏まえながら、教育活動を考え、日々子どもたちに接しています。

今年度で３年目となりますが、一度も「例年通り」の年度初めとなったことがありません。与えられた条件の中で、何ができるのか。優先することは何か。何が大切なのか。何が子どもたちのためになるのか。根本に立ち返って考えざるを得ないことが多く、そういう意味では貴重な経験をさせていただいているなと思っています。

今年度の入学式（小中合同）

蘇州だより

蘇州日本人学校
教諭　櫻井　紀邦
令和４年７月２３日
No.１３

２８日から夏季休業となります。私にとっては、蘇州での最後の夏休みとなります。とはいえ、この暑さではなかなか出かける気になりませんが。

暑い

蘇州の夏は暑い！今年の７月は最高気温４０℃以上、最低気温３０℃以上の日々が２～３週間続きました。蘇州は水の都といえば聞こえはいいですが、湿度は常に高いので体感している暑さはなかなかのものです。赤道直下の日本人学校で勤務した経験がある同僚も蘇州の方が暑いと断言しています。私は子どものころから暑さが苦手で、夏より断然冬が好きですし、また冷房が苦手な冷え性でもあるので、参ったなあという日々です。学校でも、自宅でも２４時間エアコンなしでは生きてはいけません。しかし、そんな暑い中でも配達員のバイクは走り回っていますし、街のあちこちに立っている警備員や清掃員はいつもと変わらず働いています。身体は大丈夫なのだろうかと心配になります。私は、自宅と学校の片道２５分の歩きだけでぐったりです。

学校にもこの暑さは大いに影響があります。熱中症指数は常にとんでもない数値をたたき出し、外での活動は禁止の毎日です。校外学習はほぼすべて中止。子供たちは毎日空調のきいた室内で過ごしています。幸い、体育館もエアコンがついているので、体育はできます。運動場が改修され、張り替えが完了した美しい人工芝のグラウンドも教室から眺めるだけとなっています。暑さで水泳ができない日も多くありました。熱中症指数が高いこともありますが、水温が３４℃を超えるようでは、さすがに水泳指導はできません。水道水を足して、オーバーフローしてみては？との意見もありましたが、よく考えたら水道から出てくる水はほとんどお湯ですので、ほぼ効果なし。考えられるだけの配慮をして、熱中症指数が低めの日（といっても常に基準越えではありますが）に、短時間で水泳指導を実施しました。

暑いからといって、子どもたちがずっと室内で過ごしていては、子どもたちもいつまでも身体が暑さに慣れず、かえって心配です。夏休み明けには、運動会の練習も始まります。そこで、短時間ではありますが休み時間に１年生の子どもたちを外に連れ出し、だるまさんがころんだや靴飛ばしなどをして、暑さに慣れる機会を設定しています。ギラギラ照り付ける日差しの強烈さに緯度の低さを実感します。身体が焦げそうです。

そうそう、１年生が育てている朝顔が蕾のまましおれてしまい、なかなか花が咲いたところが観察できなかったのですが、原因が分かりました。気温が高すぎて、花びらが広がる前にしおれてしまうのです。ベランダからエアコンのきいた教室に入れたら、咲きました。子供たちは大喜びでした。草花を育てた経験や、虫取りをした経験がない子が多いのも日本人学校の特徴です。小さい頃から都会のマンション暮らししかしたことない子もいます。だからこそ、朝顔の鉢に手で土を入れる体験が貴重なのです。子供たちにとっては、土や草花に触ること自体が新鮮で、わくわくの体験です。

蘇州は緑茶の名産地です。春に中国の方に茶摘みに連れて行ってもらいました。お茶の木は、日本と異なり、山の斜面に自由に枝を伸ばしています。新芽のみを摘みます。お茶の製法は日本とかなり違いました。

蘇州だより

蘇州日本人学校
教諭　櫻井　紀邦
令和４年９月１８日
No.14

もうすぐ運動会

今週末の９月２３日（金）に蘇州日本人学校で運動会が実施される予定です。

年度初めの予定では、春に実施する予定でしたが、コロナの影響でオンライン授業が長引いたため、９月２４日（土）に変更になりました。そして、さらに運動会実施２週間前になって、実施日を１日早め、金曜日に実施することにしたのです。これには、現在の中国の状況が大きく関係しています。

まずは、蘇州市の教育局に申請していた保護者の入校が認められませんでした。コロナの感染拡大の懸念があるからでしょう。保護者の入校ができないなら、土曜日ではなく、金曜日に運動会を実施した方がリスクが少なく、安心です。

日本人学校は、中国の方々から注目を集めがちなところがどうしてもあります。休日に学校があり、たくさんの児童生徒が運動場に出て、大きな音で音楽をかけ、イベントをすると、現地の方々の興味関心を引いてしまうかもしれません。結果、多くの人が学校周辺に集まることになると、不測の事態が起こりかねません。特に８月から１０月にかけては、日中の歴史に関わる記念日が多く、日本人は特に慎重な行動が求められる時期でもあります。さらに、今年の１０月には５年に一度の大きな党大会が実施されることになっており、例年以上の慎重さが必要と言われています。こうした状況を考えると、平日の金曜日に実施した方がよいとの判断です。

このように書くと、中国で日本人はさぞかし不愉快で肩身の狭い思いをして暮らしていると思われがちですが、私自身は在任中に日本人であるという理由で中国の方から理不尽な扱いを受けたり、不愉快な思いをしたりしたことは一度もありません。

運動会が無事行われ、子どもたちのよい思い出となるようあと１週間子どもたちと一緒に頑張っていきたいと思っています。

蘇州ミニ観光

少しコロナが落ち着いていた夏に、蘇州にある近場の観光地などを訪れてみました。世界遺産の庭園やパンダの写真を載せますね。庭園は、落ち着いた雰囲気のよいところでした。やはり同じ東洋人だからでしょうか、美意識はどこか共通したところがあるのかもしれません。パンダは蘇州にもいます。パンダはエアコン完備の部屋でゆっくりとくつろぎ、こちらは 40 度の暑さで汗だらだらという状況でしたが、他にお客さんも見当たらず、30 分ほどパンダを独り占めでした。

蘇州だより

蘇州日本人学校
教諭　櫻井　紀邦
令和４年１１月１４日
No.15

相変わらず、２日に一度 PCR 検査を受けています。面白いのは、最近では、検査官がのどを拭った綿棒を一本の試験管に１０人分ぐらい一緒に入れています。ということは、私の綿棒が入った試験管の中に一人でも陽性者がいたら、その１０人とその関係者が一網打尽にされるのだろうなと…。列の前後に並んでいる人、みんな陰性でいてね、と思いながら列に並んでおります。

学習発表会

１１月１２日（土）に蘇州日本人学校で学習発表会が行われました。

私としては、蘇州に来て３度目の学習発表会となります。昨年度、一昨年度は保護者の入校が認められず、また児童生徒が体育館に集まることも認められませんでしたので、オンライン中継する形での実施でした。

今年度は、私が蘇州に来て初めて保護者入校が認められた中での学習発表会となりました。保護者入校が認められたといっても、自分の子どもがいる学年だけ参観する形です。一つの学年が終わる度に、保護者を総入れ替えします。多少の混乱も予想されましたが、スムーズに終えることができました。担当者は、３年前の資料を参照しながら、計画を立てたり、運営をしたりしていました。

保護者の入校が認められたのは、今年度初でした。保護者が入校する際には、校門で必ず３つの証明を提示しなければいけません。「健康コード」「移動履歴」「４８時間以内 PCR 検査陰性証明」です。大変といえば大変ですが、どの証明画面もスマホ一つで一瞬で表示することができるため、さほど手間でありません。中国におけるスマホでの情報管理の徹底ぶりには相変わらず驚かされます。

学習発表会自体は、各学年の個性が出たよい発表会でした。日本人学校らしいなと例年感じるのは、「日中友好」や「国際理解教育」に関連付けた内容が多いことです。中国語の授業も全学年実施されていますし、総合的な学習等で中国文化に触れる活動もありますので、自然とそうなります。外国で実際に生活している中での国際理解教育は、日々の日常の生活と密接に結びついており、日本で行う国際理解教育とは、子どもたちの意識の上で大きな違いがあります。逆に、異文化の中にいるからこそ、日本の文化のよさを見つめなおすことも欠かせません。私自身は、昨年度も今年度も日本文化を大切にすることをテーマに内容を考えました。もっとも、現地との交流活動や校外学習がほとんど実施できず、修学旅行も宿泊学習も中止となっている状況だからということもありますが。

生活科や図工で使うどんぐり等を休日の度に散歩しては拾い集めました。おかげで、どこにどんぐりの木があるか随分詳しくなりました。どんぐりを拾っていると、散歩している中国の方が何人も気さくに話しかけてきます。言葉はほぼ通じませんが、親しみを込めて。あっちにあるぞと身振り手振りで教えてくれる人もいます。見ず知らずの外国人に笑顔で話しかける気さくさは、いいなと感じています。

蘇州だより

蘇州日本人学校
教諭　櫻井　紀邦
令和４年１２月２７日
No.16

中国では、１２月にコロナ政策の大きな転換があり、対応に追われました。来年は、どんなことが起こるのだろうと不安もありますが、３年間のコロナ禍の中国生活を通して、その時できることをするしかないなといい意味で開き直った境地を獲得したような気もしています。

ゼロコロナ政策終了

１１月末から１２月初めにかけて、コロナ対策が厳しさを増していました。ほぼ毎日のように行われる PCR 検査。家と職場の往復以外、どこにも立ち寄らないようにとの当局からの通達。私の家のすぐ裏のマンションも封鎖され、緊張感が高まっていました。

そんな中、１２月７日に発表された突然のコロナ政策の転換。地下鉄に乗るにも、お店に入るのにも、今まで必須だった健康コードや移動履歴、PCR の陰性証明の提示などが一夜にして不要となりました。ところが、おもしろいのは、学校だけは全教職員・全児童生徒を対象に、月・水・金に PCR 検査をすることが求められました。当然、学校の PCR 検査では陽性者が続出するだろうな…と思っていましたが、案の定。１２月１６日（金）に行われた PCR 検査で、一気に陽性者が出ました。この日の PCR 検査の結果を待つまでもなく、教職員の中からも高熱が出て早退する者もちらほらいました。土日には、教職員の発熱報告が続出し、学校運営が困難になり、月曜日は臨時休校としました。火曜日からオンライン授業に切り替える予定だったのですが、教職員、保護者、児童生徒に一気に感染が広がり、オンライン授業の実施も不可能な状態になりました。急遽、冬休みに早めに入ることにして、学校を閉鎖する事態となりました。かくいう私も土曜日に発症し、２日ほど高熱を出しましたが、３日目にはけろっと元気になり、以来家で静養しております。PCR 検査では、しっかり陽性が出ました。

日本人学校では、１２月いっぱいで帰国する児童生徒も少なくありません。転出児童の荷物の引き渡しは、わずかに残った感染していない職員が行いました。教室に残っている荷物をかき集め、消毒し、校門の外での引き渡し。転出する人数も多いだけに、想像以上にハードな作業だったようです。転学書類は、保護者に渡すのが通常ですが、例外的に後日郵送という形を取ることにしました。

年明けに出勤するには、PCR の陰性証明が必要です。ところが、あちこちにあった PCR 検査場がこれまた一気に閉鎖となっており、少し遠くまで行く必要があります。出勤日に結果が間に合うように、また検査を受けに行列に並ばないといけませんね…。

私たち３年目の教員は、コロナの予防接種を日本で一度も受けていません。現在、重い症状の教員もいます。そもそも、武漢のニュースが報じられたのは、赴任先が決まった後でした。私たちも中国で中国製のワクチン接種を２～３回受けてはいますが、効果があまりないことも報じられています。「水ワクチン」などと悪口を言う人もいるぐらいです。現状では、感染の爆発的拡大により医療体制がひっ迫しており、いざという時に必要な診療を受けることが難しい状況です。自身の免疫力・抵抗力を少しでも高めておくしかないか、と原点にかえって家でのんびり過ごしている年末です。

PCR 検査の行列（もう少しで検査！）